

学校名	幸手市立幸手中学校
学年	三年三組
氏名	設永綾乃
性別	男(女)

題名 平和と税

「あれ、いつもと違う。高速からアスカルが見える。」

修学旅行からの帰り道のことです。今まで
 はなかなか時間通りに学校や到着予定の場所
 に着きませんでした。でも今回は違っていました。
 たのです。東京駅から一時間で市役所まで着
 きました。圏央道が幸手を通るようになった
 からです。

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

圏央道の建設が始まると、登校ルートに信
 号ができました。今までにはないような長い
 横断歩道のため、小学生が渡るのは大変と言
 うことで、違う学校へ通わなくてはならない
 小学生がいます。一回の青信号で渡りきれな
 いお年寄りがいます。このようなことから
 「こんな高速道路いらないよ。」という声が開
 こえてきました。私も必要のないものと思っ
 ていました。

ところが、いざ開通を前にすると、「高速
 道路も歩こう」というイベントが行われまし

中学生の「税についての作文」原稿用紙

作品番号	1	2	3	4	合計

た。このイベントがきっかけとなり、私が今まで思っていた圏央道のイメージが一変しました。それは、この高速道路から見た幸手の景色が、自分の住む街だよと誇りに思えたからです。どこかに行くとき、また帰ってくるときに、きっと安心できると思いました。その思いが実現したのが修学旅行からの帰り道だったのです。

この圏央道こそ、日本国民の税金によってできたものです。税金の使い途の一つとして

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

あげられるのが、道路を造ったり、補修をしたりすることです。社会資本として道路はいつまでも残りますが、補修もしていかなないと大きな事故につながることも考えられます。その他、税の使い途として公共サービスがあります。これもまた、豊かで安心な生活をしていく上で不可欠なものです。私たち国民の幸せを考えるとき、税は絶対に必要です。だからこそ、憲法において、納税の義務が定められているのだと思います。税金を納めるこ

とは幸せを手に入れることだと思ひます。税
が私たち国民の幸せを導き、平和な世の中に
していくのです。だからこそ、納税の義務を
守ることが大切だと思ひます。

圏央道ができたことで、本当に便利になり
ました。高速道路がつかがり、都内を通らず
にいろいろな地方へ行かれるようになりまし
た。まだまだ家の近くを高速道路が通らず、
不便をしいられてゐる人たちも日本全国には
いると思ひますが、いつかは、どんな町も税

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

金によつて潤うことができると信じています。
日本国民の誰もが必要と思ひ、公共施設や公
共サービスを行い、幸せで、平和な世の中が
築いていけるように、納税の義務を果たして
いきたいと思ひます。

中学生の「税についての作文」原稿用紙